

2010-06  
**授業科目名/Subject**  
**日本社会**

学科区分/Department	学年/Year	形態/Term	単位/Credits	カリキュラム Curriculum	クラス/担当者 Class/Instructor
国際関係学科 国際文化学科 国際交流学科 国際ビジネス情報 学科	1	通年	4	新旧	服部 慶巨

■ **授業概要 / Outline**

- 授業のテーマ/Overall Theme for Course  
日本(人)の人間関係の特徴を理解する(通年開講)
- 授業のねらい/Goal  
「国際社会」を語る時、その前提として自民族(自文化)およびその仕組みを理解することが必要となる。そこで、「日本人とは何か?」という点からアプローチを始め、「日本社会の特徴」を理解していくのが、本講義のねらいである。
- 授業の方法/Content  
日本人および日本社会を理解するための概念・理論・キーワードを紹介し、海外から日本(人)がどのように理解(誤解)されているのかという視点もふまえて講義する。参考書やプリント、視聴覚資料(CDやDVDなど)を用い、理解の助けとする。様々なメディアを通じて得られる情報を、随時紹介する。

■ **授業計画 / Teaching Plan**

- 第1回 シラバス授業(講義の方針、展開方法、基礎概念、目標などの確認)
- 第2回 日本(人)について学ぶ必要性(1) 状況(情況)的影響
- 第3回 日本(人)について学ぶ必要性(2) 文化変容(1)
- 第4回 日本(人)について学ぶ必要性(3) 文化変容(2)
- 第5回 日本(人)的「愛」(1) 意思性と自然性の比較
- 第6回 日本(人)的「愛」(2) 慈悲
- 第7回 日本(人)的「和合」(1) 他人志向性
- 第8回 日本(人)的「和合」(2) 「少年ジャンプ」の原則
- 第9回 日本(人)的「共感性」(1) 共悲
- 第10回 日本(人)的「共感性」(2) 現代的な問題点
- 第11回 日本(人)的「仲間意識」(1) 特徴(1)
- 第12回 日本(人)的「仲間意識」(2) 特徴(2)
- 第13回 日本(人)的「仲間意識」(3) 相互依存性理論
- 第14回 日本(人)的「仲間意識」(4) 浪花節的人間関係
- 第15回 日本(人)について学ぶ必要性(4) 日本人の発想
- 第16回 日本(人)について学ぶ必要性(5) 日本人の表現
- 第17回 日本(人)的コミュニケーション(1) 概説(コミュニケーションとは何か?)
- 第18回 日本(人)的コミュニケーション(2) (全人類に共通な)構造
- 第19回 日本(人)的コミュニケーション(3) 特徴
- 第20回 日本(人)的コミュニケーション(4) 親密性
- 第21回 日本(人)的コミュニケーション(5) 多義性
- 第22回 日本(人)的コミュニケーション(extra)  
映画「いつか どこかで」(小田和正監督作品)の鑑賞・考察(前編)
- 第23回 日本(人)的コミュニケーション(extra)  
映画「いつか どこかで」(小田和正監督作品)の鑑賞・考察(中編)
- 第24回 日本(人)的コミュニケーション(extra)  
映画「いつか どこかで」(小田和正監督作品)の鑑賞・考察(後編)

- 第25回 日本人的「私」(1) “わたかくし”
- 第26回 日本人的「私」(2) 自我・主我・他我
- 第27回 日本人的「私」(3) 70～80年代のニュー・ミュージックに見る「私」(もしくは“わたかくし”)
- 第28回 特別解説(前半)
- 第29回 特別解説(後半)
- 第30回 まとめ

## ■ 教材 / Teaching Materials

- 教科書/Textbooks

著者名/Authors	服部 慶巨
書名/Title of books	補強版ストレス・スパイラル—悩める時代の社会学
出版社/Publishers	人間の科学社
ISBN	ISBN4822602389
備考/Notes	

- 必携参考書/Required reference books

プリント配布 / Handouts

- 推薦参考書/Recommended reference books

開講時に指示する / Announced during the first class meeting

## ■ 履修条件 / Prerequisites

単一的(主観的)な視点ではなく、客観的な分析・発言に関心のある学生の参加を希望する。  
 なお、講義の展開方法の関係で、留学生はなるべくこの講座を履修することが望ましい(もちろん、このセメスター開講されている「日本社会」を履修しても可)。

## ■ 成績評価 / Evaluation

終講試験(70%)、受講態度(20%)、レポート類(10%)で評価する。なお、全講義回数(30)の3分の2以上の出席が原則(公欠や就職活動による欠席などは申し出ること)。

## ■ 準備学習の内容・その他 / Preparation and Others

特別な予習は必要としないが、講義で紹介された事例・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)してから次の講義に臨んでほしいと思う。

## ■ 連絡先 / Contact Information

服部 慶巨

- オフィスアワー / 質問・相談は、講義の前後またはEメールで受け付けます。